

# 食物アレルギー緊急時対応マニュアル

異変に気がついたら子どもから目を離さない

迷ったらエピペン®を打つ！

助けを呼び、人を集める

ただちに119番通報

下の症状から重症度を判定し、速やかに行動する

全身の  
症状

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便をもらす
- 脈が触れにくいまたは不規則
- 唇や爪が青白い

少なくとも5分ごとに、繰り返し症状を観察  
経過・内服・エピペン®使用の時刻を記録

呼吸器  
の症状

- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸

- 数回の軽い咳



消化器  
の症状

- 持続する強いお腹の痛み  
(がまんできない痛み)
- 繰り返し吐き続ける

- 中等度のお腹の痛み
- 1~2回のおう吐
- 1~2回の下痢

- 軽いお腹の痛み  
(がまんできる痛み)

目・口・  
鼻・顔面  
の症状

上記の症状が  
1つでもあてはまる場合

- 顔全体の腫れ
- まぶたの腫れ

- 目のかゆみ、充血
- 口の中の違和感、唇の腫れ
- くしゃみ、鼻水、鼻づまり

皮膚の  
症状

**緊急**

- 強いかゆみ
- 全身に広がるじんま疹
- 全身が真っ赤

- 軽度のかゆみ
- 数個のじんま疹
- 部分的な赤み

1つでもあてはまる場合

**受診**

1つでもあてはまる場合

**注意**

- ①エピペン®を使用
  - ②救急車を要請（119番通報）  
→緊急時連絡先医療機関に連絡  
→保護者に連絡
  - ③その場で安静を保つ(\*)  
→立たせたり、歩かせたりしない
  - ④その場で救急隊を待つ
  - ⑤可能なら内服薬を飲ませる
- \*安静を保つ体位
- ◇ぐったり、意識もうろうの場合、仰向けにして足を15~30cm高くする
  - ◇吐き気・嘔吐がある場合、横向きに
  - ◇呼吸が苦しく仰向けになれない場合、上半身を起こし後ろに寄りかからせる

- ①内服薬を飲ませ、  
エピペン®を準備
- ②速やかに医療機関を受診  
(救急車の要請も考慮)
- ③急速に進行する場合  
→「緊急」の対応
- ④座位にして会話をしながら  
観察すると、急変に対する  
判断・対応がしやすい

- ①内服薬を飲ませる
- ②「急速に進行する」又は  
「悪化が予想される」場合  
→「受診」「緊急」の対応
- ③少なくとも1時間は観察  
完全によくなるまで目を  
離さない

## アドレナリン自己注射薬（エピペン<sup>®</sup> 注射液）の使用手順



- 1 青い安全キャップを上に向けて、片手でしっかりもつ。
- 2 もう片方の手で、青い安全キャップを外す。

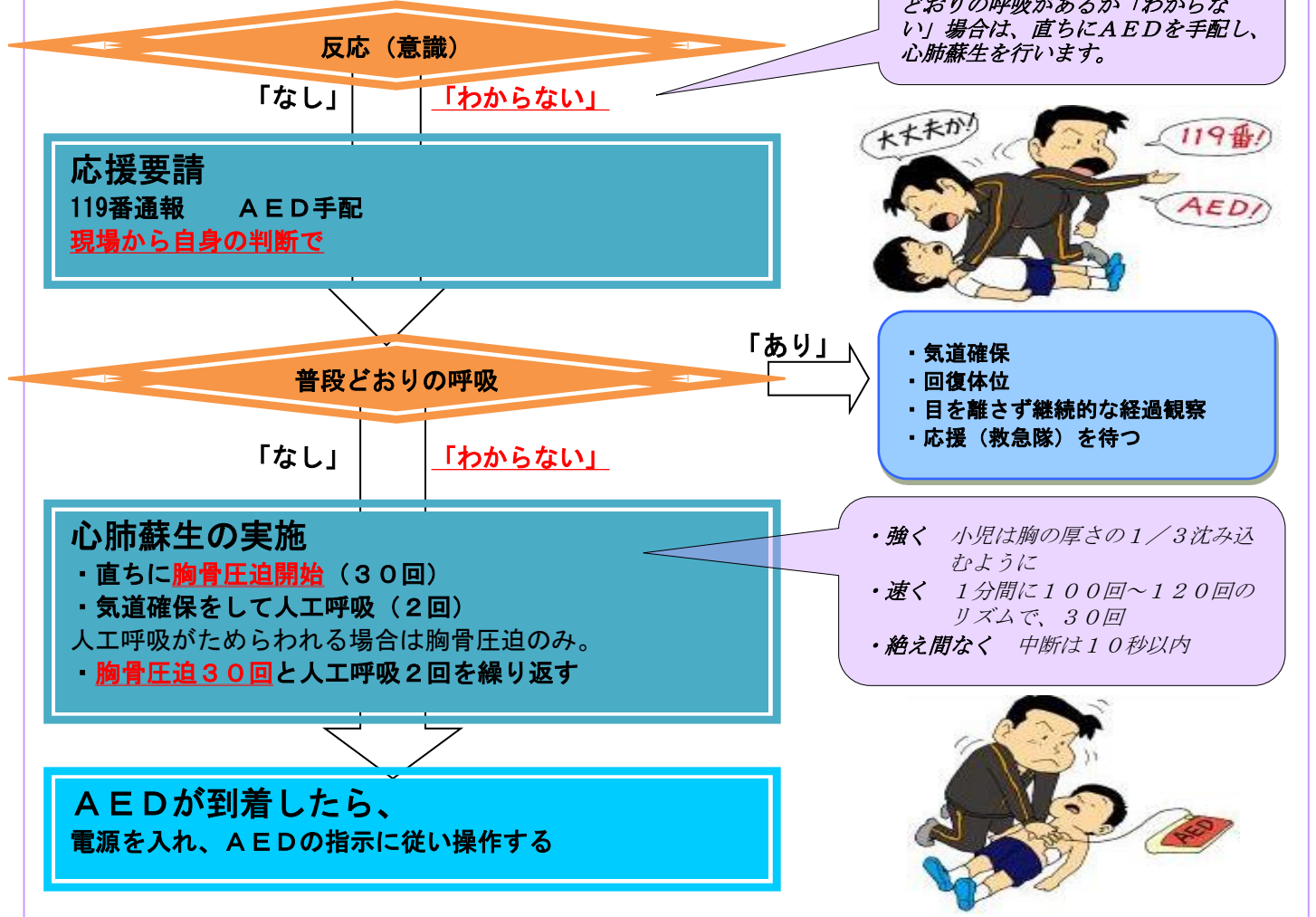


- 3 太ももの前外側に垂直になるようにオレンジの先端を強く押し付ける。
- 4 押し付けたまま、数秒待つ。



- 5 緊急の場合は、衣服の上からでも、注射できる。注射後オレンジのニードルカバーが伸びたことを確認する。

## 「傷病者発生時における判断・行動チャート」



- ◆救急車への同乗（当該児童生徒に最初に対応した教職員が同乗し、事故発生時からの状況を救急隊や医師に報告する。）
- ◆最初に来た応援者が指揮命令者となり、対応にあたる教職員に役割分担を指示する。
- ◆管理職は現場到着した時点で指揮命令者と共に指揮命令にあたる。
- ◆他の児童生徒の混乱や動揺を抑えると共に、噂や憶測により誤った情報が伝わらないよう十分な指導を行う。